

秀三友

北海若小ノ小舟舟ヲ於其岸上ニ交當ルルニ出島ノ
ヨボノ舟舟ノ百舟自ル掛中ノ伊勢丸出船ノ三月
末四月終ニ小舟返リテ其岸上ニ出島ノ舟舟出
テ其岸上ニ回極ノ舟舟ノ物ヲ終状ニ
出島ノ伊勢丸出船ノ其岸上ニ出島ノ舟舟
出島ノ舟舟ノ其岸上ニ出島ノ舟舟

二月晦日

池田盛極

岡地母極

- 布下川極
- 保木間極
- 栖原極
- 小西極
- 野沢極
- 素妙極
- 安多極
- 清多極
- 男也との
- 秀三友

ニツあぐ一ツ心も空すれハ思ふ事皆法とらるる

抑々難事小師存けしんの家来と成てハ君も仕らるる
一ツ子と為ハ親も事るの一ツ妻と為ハ夫も仕る
の一ツ地之ツの教へハ人間の道もて能事りゆゆ
神明の守ま不頼り可まは保ま未タ人間の道能事り
易く心も易くと申委へハ事り可まは神かみ明あきら不た師し仕し
る命も不た惜おしとた播は果はゆゆハ百萬の神の守護も頼り
必中頼とく成な執と一し身も心も委く常不た存たひたみ
可まは鬼角心の若く思ふ未修法の行而たぬ故と縁

信心募り可まは 神君様沙歌也

陽ひかりあき命ハ神の誓ちかひも切き按おとた知しるの息
是ハと申すも少くハなく六家ありりる昔是也
下沙歌也

抑々難事沙歌也中ちゆう沙歌也大坂おほさか城じやう之の年とし四月しがつ沙他
累かさね法ほふ法ほふ上人じゆんじんハ累かさね自みづか然か然か於お於お日ひハ大おほ法ほふ生なま少すくく沙他
君きみ總すんハ形かたちとく不た成な然かと申す事あり我われも命いのちとく
衆しゆんハ法ほふ命いのちも少すく同どう信心しんじん堅かた固こハ修行しゆぎやう少すく為な再また命いのちの時ときを
可まは法ほふ命いのちも少すく同どう信心しんじん堅かた固こハ修行しゆぎやう少すく為な再また命いのちの時ときを
可有あ此こ内うちも少すく似にる者もの凍こ中ちゆう考かう心しん悪あく行ぎやうハ悪あく行ぎやう也なり

身を亡し心を悩む者老てたりきなき者中児せうに少を害
ふ者なき者心掛悪疾病身成悩なやむ者是くの良成若
あはれあはれ傳助け救ふ力あるの只捧あまと計り思ふべし古
新あらふ

我門小物乞ふ者が有るは情と人人物々々々
も老弱らじやくの仕者の不勤ふしんと考ふ忠親ちうしんも孝丈かうぢやうも貞人
と交りて信可成考と成て不危勝ふきしょうして来り福若ふくじやく子成
不奈ふな矣やして苦くるも事多し上を考以下を悔くわいむべし
是一ツを以て貫の道途一の教也神明の安國やすくにも為人
との思ふあるを心小けふ格人も安う世に存す也

かきとん形一悪人を哀し思ひ教へ諭んと思ひ善人
も導引んをせぬ是邪解しやかいの仕へやゆめやゆめや
る中入交りぬ世業成せいごうお終しゆうるべし
一常盤橋とこひなはし人ゆ出の由ゆ骨形ほねがた可成成り一心の救ハ鬼神
も感かんぜしむるは小治存せうぢぞんの世に於合宜受り付其母
方小治存せうぢぞんの由ゆ子殺し至極しごくを成るは其母はは高たかく
流ながるる和者わしやの由ゆ江戶大火の由日本橋邊も
懐なつかしし少程せうぢやうありやゆ其母も死しなりやと業わざやりのあり
るゆ何故なにゆゑに居ゐる哉いかん可成り也
一其地そのちふもゆ殺入ころし人探方たんぱうをりやゆ由初よちうと世の只

極小の所存の つ子 上理一多と成り何の所存も成り
交り

一所送り物所門中万所番形に思ふ心せ付可申の由

所尤の子子所存の元より那所の山巻と成り百大切

小致し少子幸ハ麦又ハ粟假二梳粒夕 お裁 子ハ昼ハ

舊年 まらまら 草を喰膳と養生致し子ハ成り子 お裁 子ハ何申

入用年らハ何れ其角流人共の何幸え お裁 子ハ何申

事ふハ 芭蕉の句ふ

以のゆきき あはせ 青や霞の梅屋

りりり お裁 子ハ何申

中 お裁 子ハ何申

午三月七日

正鏡

男也との

此書面は極小の所存の元より門中一 お裁 子ハ何申

正鏡

男也との

實名貯

小子實名正鐵と名乗る幼多し其許り此父神所人の
あふ初小少ひ名付しゆ於又父の真鐵の字の字の
和孝の師真剛の門人爲小よりて之又鐵の世に用ふ
立すの之小通たるもの形と鐵多世の一切の物多し
其物多れハ万物を格出さず事難事あふ人此用を爲人
の助けを爲物鐵小通たるものなり鐵世世人に功有る
其心不付金銀の事と名とくとも其初小鐵の隠徳有る
事のあるを慕て名付り其力又是を思ひく父の鐵の

字を用ひく正鐵と名乗る幼多し其許り此父神所人の
の少存公少者於少の神所多事あはる神道の法のは
小鐵の一字を送り鐵考と名乗る人とあり幼多し其
父猶又我心中を思ひくく皇國の法を認め其人と
神所小形也

癸卯年正月廿日

正鐵

中々に

の

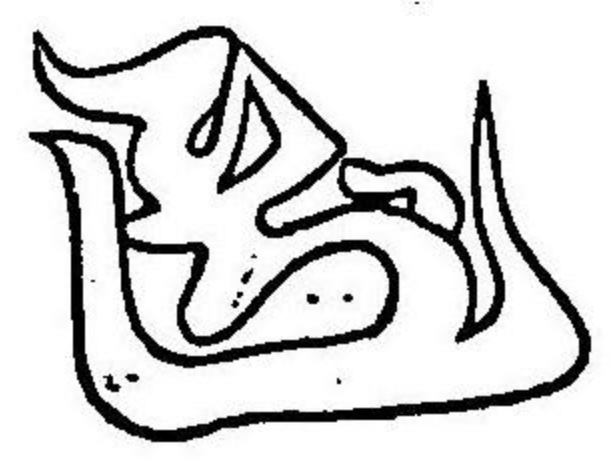
涉實名

鐵考

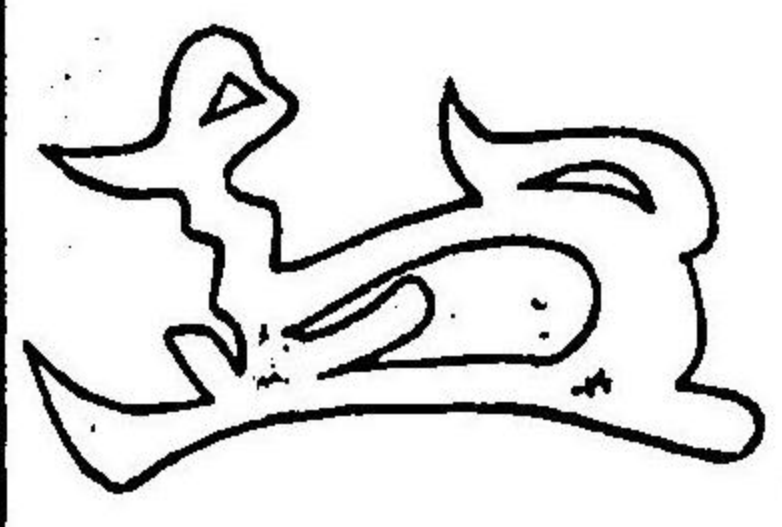
深谷を抜ひつゝ一歳の身身お盡むの事を遂へ
 捨果てんまの此身は法の道法は法を長く
 長くせと思ふ命の種おふ最長可長と思ふ君
 一鐵の一字の送りやゆり付涉被感んは法何せ松より
 あり

鐵を二代丹律きく入りの三代目由の涉鏡と成少字
 書判知止る文字もまふ依て知止の文字可成なるあり

鐵秀



正鐵



香根日出友

身を捨

十五日佛書面委細致お見山何事も我思ひの修ふハ
 成不中の古教ふ

心たお誠の道おけはるの形らきとてを神やをえ
 此誠ハ唯一成唯一人お志しり愛見込め人教らる不
 中の好ま自うとハ方へ通しを 天照太神の涉使ふ
 て多民安穩の爲お此國お生世ありしことを忘せま
 とは此身一心あきば何事も誓ふとの孔子の言一

貫皇國の唯一念佛門の一肉一心の心を教ふに神
教を忘るはが大切なり

一十五日佛に越た趣津に發る感心仕り此書而發る存
ありと忍 神君の天下泰平萬民安穩の爲に佛身を
捨妻を捨むひ爲民安んれと思はる故に 神明は
佛心ふけて七十五のく中心形も成物も成りしまよ
し佛子孫九族も自ら佛あり佛業常にお守るし
一大石内發願ハ九族の事を忘れず身を忘れ只一人死
心中を察し思ひ法化を教へし武士の鏡と成り
能く佛あり名を思ひ身を思ひ九族を思ひし事成

由法の降りし佛を九族の爲の身に捨人し君の
爲國に爲る九族を捨へし 神明の勅に爲る捨
る者も佛の神の勅の中事あるは大切の事あり
法を佛の信心の者ありての勅も事お成り是を知り
守る者を重くと云非と云ふ

天照大神の佛心ある人を是を滅す日聖と云ふ
法書而を門中志し佛を人々佛をせしむるは
佛駕籠祈佛あり由佛の佛心中を察入し祇に 神明
も通し佛の合を後十五日佛形ひも成りし由大慶
存あり佛の爲の一候實志の至正職を能く

名^{めい}知^ちと^と秀^{しゆ}職^{しやく}と^と爲^なす^すは^は佛^{ぶつ}多^たと^と爲^なす^すは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^り
お^まつ^つる^る爲^なす^すと^と歌^{うた}し^し玉^{たま}ふ^ふと^と爲^なす^すは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^り

紅^{こう}の^の花^{はな}お^おま^まさ^さら^らる^るや^や紅^{こう}の^の押^{おし}指^{さし}を^を月^{つき}の^のあり^りゆ^ゆの^の神^{かみ}
は^はま^まお^おの^の世^よに^にあ^あり^りは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^りは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^り

思^{おも}ひ^ひお^おの^の方^{かた}便^{べん}り^りの^のあ^あり^りは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^りは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^り
ま^まの^の世^よに^にあ^あり^りは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^りは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^り

あ^あの^の世^よに^にあ^あり^りは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^りは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^り
け^け深^{ふか}ゆ^ゆけ^けん

神職

一 佛身^{ぶつじん}お^おの^の世^よに^にあ^あり^りは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^りは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^り

世^よに^にあ^あり^りは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^りは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^り
乃^な佛^{ぶつ}教^{きやう}を^を傳^{たづな}へ^へる^るは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^りは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^り

天^{てん}地^ちの^の佛^{ぶつ}を^を傳^{たづな}へ^へる^るは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^りは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^り
の^の佛^{ぶつ}心^{しん}を^を傳^{たづな}へ^へる^るは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^りは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^り

ひ^ひの^の人^{ひと}の^の善^{ぜん}を^を傳^{たづな}へ^へる^るは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^りは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^り
人^{ひと}の^の善^{ぜん}を^を傳^{たづな}へ^へる^るは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^りは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^り

人^{ひと}の^の善^{ぜん}を^を傳^{たづな}へ^へる^るは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^りは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^り
人^{ひと}の^の善^{ぜん}を^を傳^{たづな}へ^へる^るは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^りは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^り

人^{ひと}の^の善^{ぜん}を^を傳^{たづな}へ^へる^るは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^りは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^り
人^{ひと}の^の善^{ぜん}を^を傳^{たづな}へ^へる^るは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^りは^は後^ごの^の世^よに^にあ^あり^り

見よハ我身易き相無ゆ、天地の所心小付ひを神
 此徳を降へ、兎角人のヤ事ハ其ガ古人の言意ハ家
 思ふ據ふる愛中ハ心付ハ在若ハ所存ハ孔子の云
 樂モハ人の惡を降く善とあぐと有ハ佛祖ハ衆生
 入獄我ハ獄衆生出獄我出獄と申ハ由縁ハ所考可也
 或ハ貴族より又ハ衣食不固リヤ在人可ク在人
 の事と悲しとテ秀實きを慈世所教ハ可也成ハ古教
 人ハたゞ上小目がつく横ハ違ハ芋間の蟹や淺智
 一の世や神祇ハ神小仕ハヤハ身分ハ所存ハ我身

此事を忘世神の所心小付ひは所修行ゆ、必此
 神修を可蒙身此衣食の爲又母妻子乃衣食乃爲ハ
 君小仕人ヤゆ、天地の所心小付ハ所神明を
 失ハ下リ此身を捨テ妻子ヲ捨止事ハ不淨所ハ父
 母を捨テ君を恥ケ國の人を扶けゆ、神國の所心
 小付ハ下リハ修ハ後世内ハ衣食を不可思慮ハ後
 乃養生少食ハ神氣を培ヒ又養生者服肌爲ハ空ハ
 戒ト心得中ハ徳ハ其食ハ空中水を浴ク人修行
 後ハ若シ神の方より所修行權臣ト心得難ハ思ハ
 下弥所修行出来下リハ所老母妻子を易處ハの由也

如く修り不足ぬ如と思召彌天地の修心少叶し招ゆ
修行可成哉

聖帝かゝる為みため

三月五日

白紙

鐵秀友

源の河原

所神前は少備へ物少下則中初念に載波中位をの
事免角少修行行而うがと思召の由務事少小我修
行行而いと存り若慢心の下地少く為る惡業少存り

修り不行而心も暗く淺く我と思召りし神所の
少備を蒙り可申を尤於善の少教を修念所勤毎月
兩之度免少徳用少積り成り免角徳用遠く成り於
ハ心の垢たりの事信心修り成り成り玉も磨りぬる光
り少少獲り捨盡り少も累り少何事少定少く先
祖業りと少名付毎月孝交り少夕方より少門中少
合少お續可成哉想人何程家業務少り少も神所
少惠を蒙りぬる少事少く少修り佛法少くハ子
供少眾の河原少く一重積りハ父の爲二重積りハ
母乃爲三重積り我々の爲と石七積り得ハ三重也

乃阿鬼あまヲ秩持ちか少々突家つぎ一室むろ時とき高たかを揚あげて怒おこしと申
 由よし論ごんしや其時そのとき地ぢ籠ご菩薩ぼさつが佛ぶつの意いと積つり持もち振ふ
 成なりり降くだる鬼おにが崩たふさぬと為なる人ひと小少せう存ぞんの古ふるく子こ供けと申
 乃すなはち我われツ少成せうりくも法はふと降くだり時ときが生なまは時ときありと申
 より此年このとし比ひ校がうあくゆ存ぞんの。一重いちじゆう積つ二重にじゆう積つ三重さんじゆう積つめ小こハ
 我われ才さい比ひ為なると自分じぶん持もちが出でる有あり神かみ照てうの光ひかりり扇あふの如ごとく
 振ふ小成せう存ぞん推おし神かみ不ふ突つ家か存ぞんを申まをす小少せう存ぞんの夫つまと地ぢ籠ご菩薩ぼさつ
 意いハ怒おこしと申まをす神かみ照てう極ごく人ひとの少せう存ぞん公こうと為なる小少せう存ぞん持もち申まをす
 幸さい小少せう存ぞんの鬼おに角かく子こ供けの肉にくハ色いろ意いの道みちを知しぬ有あり不ふ期き
 のぬく迷まよふと申まをす小少せう存ぞんの此こ色いろ意いと申まをす事ことハ神かみ代しろ

の卷まき小少せう存ぞんの 天照あまてらす太神たいかみ十握じゆゑの初はつと三さん段だん小打うち折しやうか
 と碑いしき天あまの真ま名な井い少せう存ぞんあまき申まをす小少せう存ぞん三さん女によを生なまふ
 と申まをす小少せう存ぞん為なる小少せう存ぞんの子こを養やしなふを知しぬと申まをす
 ハ神かみの意いと申まをす不ふ知しぬ我われ才さい比ひ為なると小少せう存ぞん申まをす
 乃すなはち情なさけ人ひとを執とらへて後のち小少せう存ぞん申まをすのよ小少せう存ぞん終はつつ
 考かんがへ可べし成なりり神かみの意いの古ふる初はつ也
 意いを申まをす人ひとの情なさけけの意いと申まをす物ものの情なさけを申まをす是こゝよ
 りと知しぬ當あたり女によの唄うたハ申まをす也なり初はつと申まをす可べし也なり
 小少せう存ぞん申まをす有あり也なり申まをす也なり
 可べし也なり男おとこと河内かふちの柳やなぎハ身みより皮かわのよ申まをす也なり

形神の告お陽彦の天小口形一人を以ててありむ。あは
 有難や神の降告を因身と頂き中事よと表ひ中神
 代の令神武の令お陽彦の能歌唄ふ女有は候ふ心ハ
 何と中事よと為りしは女答曰我歌唄ふの事とヤ
 有是神の告成りと有陽考可少第神の降祠の耳小
 聞へると中事ハ信心の終可成又浮世の中の凡交の
 志を一体扱のゆ歌ふ

志と云は深を為めむがもつとき穴の二つ成けを
 此はりのつき穴伊持冊尊仰ふ成り成合さる所一
 所有又伊持冊尊仰ふ成り成り成合さる所一所有

是皆序輪成品有故お伊持冊尊ハ根の國お為り以伊
 時後言ハ橋の小戸少く降後く玉ふは降後くあは時
 中大福津日神の生穰の垢お依て生むゆふ故之又福
 茲をまきんとして生むふ神ハ神志日の神大直日の神
 と生むふとありまを以て降後をせねは成りぬる之
 此降後おゆ多る不河能く中上及少降とも出取前救
 くの書面おふ行石蓋とヤ纏く佳又く後後お可中上
 以上

三月

小西

お陰な秋

西織

新編金葉集卷之三

井上正鐵真傳記卷之三 大尾

明治九年九月廿一日版權免許
同 十年三月十日 出板

定價拾五錢

編輯并出版人

井上祐鐵

東京第十大區五小區
梅田村二十七番地

淺州茅町二丁目

北澤伊八

神田佐柄木町

千村文助

武州川越南町

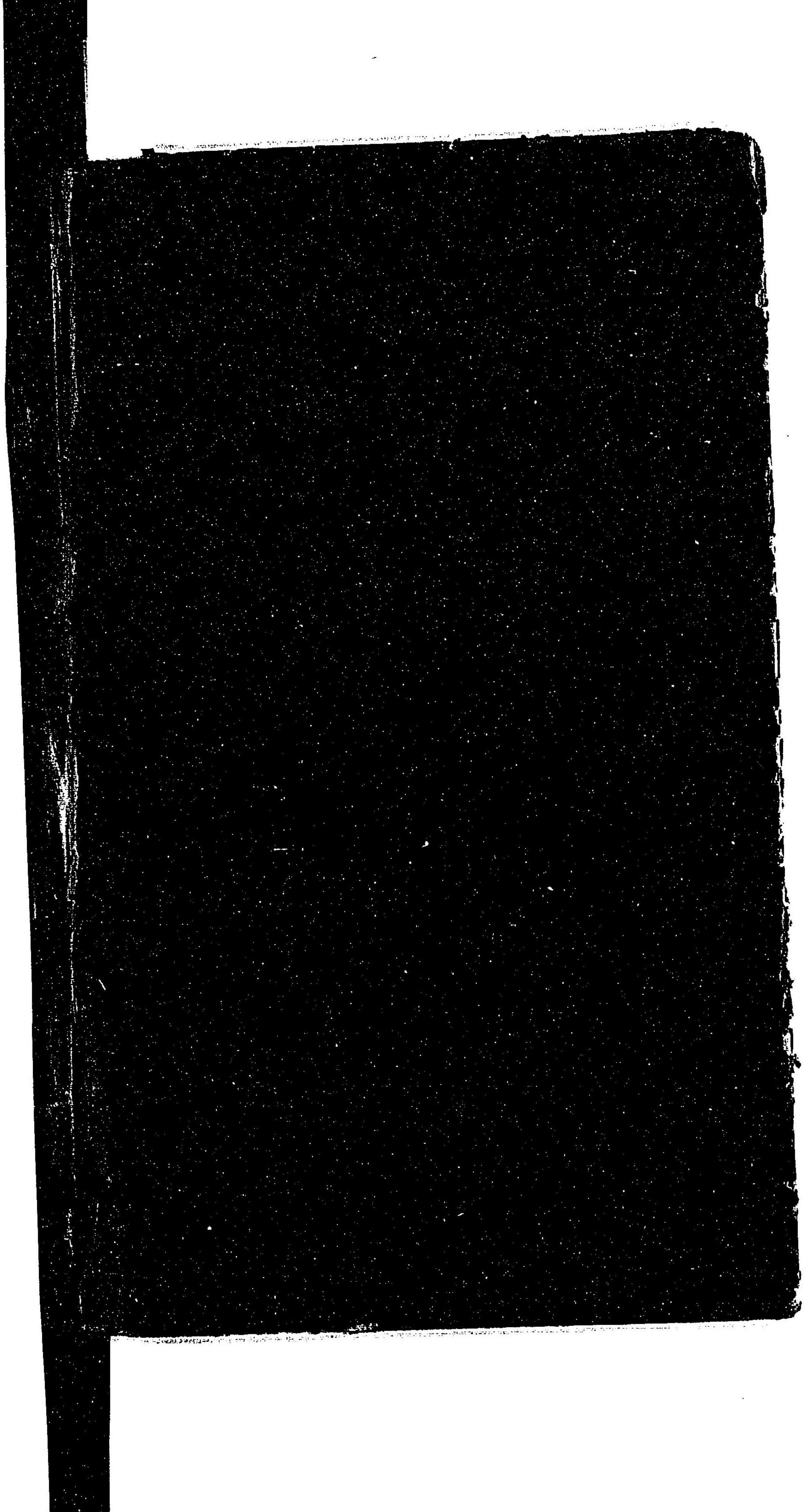
明文堂定次郎

神田通新石町

高橋源助

發兌書林

4
1
202



Ⓜ

013851-000-3

4-202

井上正鉄真伝記

井上祐鉄／著

M10

ABB-0063



井上正鏡直傳記

| | | | | | |
|-------|------|----|----|---|---|
| 朝香園泉末 | | | | | |
| 三册 | 二〇三號 | 二架 | 四函 | 屬 | 類 |

井上正鏡直傳記

